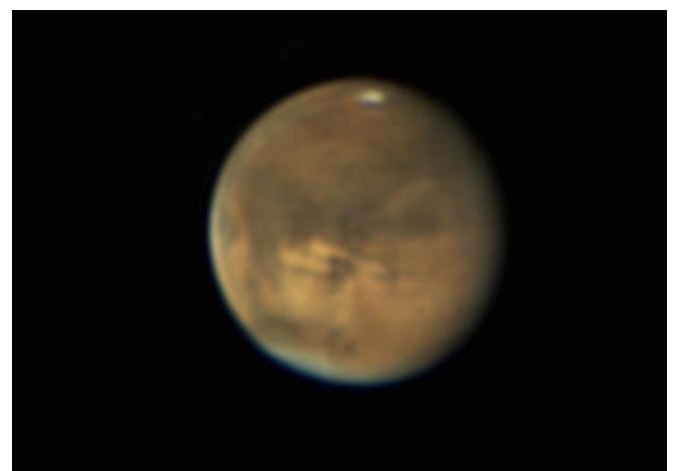




速報！^{そくほう} 接近中の火星に^{すなあらし}砂嵐発生！

2020年10月13日(UT)地球に最接近した火星は、^{よい}宵の^{あや}中天に妖しい光を放って^{かがや}輝いています。多くのアマチュア天文家はこぞって火星の写真を^{さつえい}撮影してネット上を賑わしています。^{しゅうじんちゅうし}衆人注視の火星には11月9日頃から赤道からやや南半球にかけて^{いへん}異変の^{ちようこう}兆候が見えていました。そして、ついに11月13日、砂嵐が発生していることが^{だれ}誰の目にも明らかになりました。



2020年11月13日の火星 ^{ひさたのふし} 足田純之解説員撮影
やや左下の黄色い2本の棒状の部分が黄雲

火星は地球などの惑星と比べて大きく^{ゆが}歪んだ^{だえん}楕円形の軌道を持っており、そのせいで、太陽から受ける熱も^{じき}時期によって大きく^{こと}異なります。太陽に近い時は、遠い時の40%も多く^あの熱を浴びています。8月3日に太陽に近づいた火星の太陽直下点(火星面で太陽が^{てんちよう}天頂に見える場所)の^{いど}緯度は11月現在-20度付近にあります。このあたりが、火星面で最も温度の高いところにあたっており、さらに、南北の^{きよくかん}極冠が^{しゆくしやう}縮小して火星全体の^{きあつ}気圧が高い状況にあります。このような条件が揃うと火星に砂嵐が発生します。地球から見ると黄色い雲のように見えるので「^{こううん}黄雲」と呼ばれます。今回の黄雲は火星全面を^{おお}覆う(大黃雲)までは成長しないだろうと思われませんが、現在^{はな}目の^{じやうたい}離せない状態が続いています。

2020年11月17日記 (解説員: ^{かいせつじん} 田部 ^た 一志 ^{いっし})